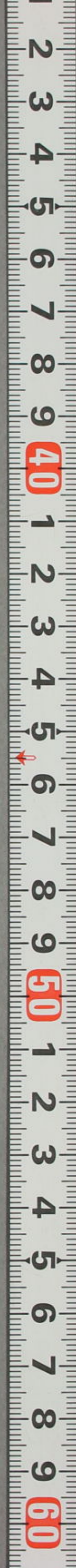




桃園雜記
初編

9
3264



抗國雜記序

志之志者，志者，必先謀者，

先入者外國雜記，日變其法，

其書信先入者，志者，而不知

其國之志者，志者，而不知



枕函雜記序

世之志于學者。必先讀書。必
先入自外國經史。目染耳濡。終
至尊信。先入為主。而不知

皇國古典籍為何物也。是故每

論世議事。輒徵漢籍。存彼末
我。猶僧徒以密佛。為本地。

國神。為垂貽也。而其學各有
所癖。或為周人。或為漢人。或為
唐宗人。或為明清人。又益甚矣。竟

無一人為

大日存人者。是忘己身生于

皇國也。嗚呼悲哉。豈有用漢唐

宋明清之人。而懷志國家者乎。

是所以近世國學。徒起而攻之也。

松苗在駭之餘。擯任儒官。然屋
第。恐與外國人伍。前著刑補
長壽養生論。痛斥佛毒。不遺
餘力。既而以儒毒亦不可不云也。乃於
再刻十八史略序中。畧述其意。

矣。而未詳其義也。今茲初秋。薩
摩名士桃岡八田君。與同國神職
出雲守井上。深洞。余。名。共。來
相見。出是書。乞正需序。因執讀
數過。拊髀曰。字句。先獲吾心矣。松

苗所難言者。八田。天已盡。井土
買和。仲。屋。曰。有。朋。自。遠。方。耳。
不。亦。樂。乎。松。苗。之。得。二。周。其。樂。不。亦
支也。願其天。以。士。不。亦。外。國。人。志。
共讀是書。

弘化乙巳秋日

從五位上行大舍人助攝音博
士源朝臣松苗撰時年七十有二



昔所著言者ハ四ノ書也
其書ハ
其書ハ
其書ハ
其書ハ

桃園雜記

○水戸乃西山君國學と自ら稱ひしは古道を唱ふことの強きに由るを神典乃真意と明し



皇國乃貴きと志すもの四方に由るを儒の流に非ざるの言ふべきをさるるをいふ道徳論をさるるをいふ中より甚非義なるものありはるはるをさるる目録の著し政記と云書の論贊よ云鴻荒之

南面。非弑而何也。云々景帝曰。食肉不食馬肝。不為不知味。言學者無言湯武受命。不為愚。
○東坡武王論曰。蘓子曰。武王非聖人也。昔者孔子罪湯武。云々學者以湯武為聖人之正。若當然者。皆孔子之罪人也。○攢波固水。佐久間某。云々和漢明辨。云々上畧初大王以西伯之有聖瑞。欲立季歷。以及西伯。泰伯仲雍知之。走荊蠻。以避于季歷。中已以稱焉。民不得稱。泰伯之賢可知。立泰伯也。何害西伯之為聖。欲及西伯者。欲大門戶也。關受

於二子。使二子不得事父母。其仁何處有也。叛心始於大王。武王終之也。於此父子之道。再泯矣。云々。○莊子曰。湯放其主。武王殺紂。自是之後。以強凌弱。以衆暴寡。湯武以來。皆亂人之徒也。云々此論之於世。一也。悉也。云々

○まゝ、論贊云。道一而已矣。道之在天下也。猶日月。日月者。天下之日月也。非一國所私有也。道亦然。父子君臣夫婦無國無之。而慈孝忠義有別不雜。皆存於自然。云々我列聖保

法も聰明なるものと天子と仰く作法するより
子も不肖なれど徳も湯武に放伐して聖人の
權道也としてゆるさぬと見る一其道早竟利
害得失の分別よりかく実は天の真理に悖り
君臣又これ大倫を失つるものあり古語より
理に法きは天地の感と塞きとひ義とひて求れ
ハ性代極れざるをいふハ性もよく義理は法て
天地の感と塞き收びるをいふハ何をて夫即ち二
義道にかつれど徳もこれ論去る況の如きハ實
子也義子と混るるめくして甚き意とふゆめい

まも釀治織縫の譬論をいふも其風俗親
上相愛相養又過唐虞三代之民と云つる如き
の事實ある時も仁義の道において缺くも其かたに
いふもや然る代載籍者織縫釀治也而仁義
者蠶也麴米銅鐵也云々といふハ我は仁義の
粹のまわりも其用なきや漢籍よりして始りて
其道備るなりといふたといひて其意前後といひ
△為
△夫而
其意と甚かき論あり。まも先王已取而用之著
令典敢非議之。是議先王之典者矣。而幸免
於天誅也といふも例の理屈なるも道代論といふに

答曰祇好て他の是報と云ふは、
乃ちこれにして賢き人の上は、
いとも大義を知らずの邪説を
是こいまといふ君父に敵するもの
のこころは、
このゆゑに、
て不忠のむらと云ふ事、
就ちて、
すうよあはれと云ふ事、
一地球の中、
異言と云書ニ云。羅馬人説。大抵天下教法其宗ニ云々支那又有
一種目儒教者云々其教所由亦既久之支那本居東南一隅而

其化猶未能行于域中也。亦何敢望及其他。况今举其國遂
變成鞮鞞者乎。如是小教。雖有若亡。不足為天下之教也。とある
を以て堯舜乃稷授湯武々放伐を以て天命
也。も、
めたる也。實は、
於よ皇國也。ハ聖人の法と折衷して律令格式の
上には、
用い、
三種の 神事として 皇統を傳へ、
夫等れ、
我ながら、

聖人の道よあつとほひ理屈の爲ふ 皇統をく動じ
終よるおごりまさむよ即 天照太神の御意に背
き治ひかひ萬民をして天倫を失ふの治へられハ
臣士さるかぎり死せぬも諫めなむもはあつとを
かく明白なる事實乃朽るまさとはあひあつて儒者
悉聖人の道を宗として道徳論さる愚妄のあり
ことあるは色はかつてもつと事あつて治へ
ふては君臣の交り義としてするより困道ある付は
あつては道がま付はつと二たひ存せしめて
はる付と父母れあつても去るは法をれと治よ民ん

一致せと共ある用ある付と心少く号令賞罰を嚴重に
しとかく智術をも用ひさねと召はひいふとさあつり
是又和洋君臣の情をちあつて治る 皇國はくも浪人の儒者かど出處を
正しくしていて生涯出てはくさるをきけりさる
士風はかくとををりあつて治る 皇國はくも
君臣の間は交り朋友の中とくも別親心の交りと
かりては一向に至情を盡とのとて新にも至義理は法
らはるものこ又治をよく甚道の明くあつと治る
ありとは聖人と逆賊と混して其論一決せしむ
見くしはるを春秋乃法なりとよりはく論語を泰
伯伯夷叔齊等と稱したるよりはく湯武のめきハ決

定めて逆賊するが中庸の六節一仲尼の語に武王
周公者夫達孝乎と云ん韓愈の語に道統の
傳りも湯武を除くと孟軻の一夫の紂を誅すと云
司馬光の語に其言を密に猶古の節にも經典乃中
也と云はれらむあはれ語を多くして千載儒者の務一
決をばらばらと云ふやそも聖と賢とを混するは
の誤りありとも聖と徳とを混するは論をばらば
らあり然るもなきはや君を殺す一のめさハ忠と
逆賊と云ん人の節なきは民を救ふといふ理をば
は天の下の説を行はるは湯武の放伐の權道也といふ

もさうするを忽善悪混するは及ぶものよれ其の僻
事を全く理代るとする儒學乃弊也と云ふは
其第一義の理をいふものと云ふて事をば
たよく定本なりと物に就つことと便利にきれは日
用なるを其定本ありと裁断はさるる論なりといふ
はる大となく小となく天下のありとこの定本あり
は其れは人情の理なり真理と云ふことありの弊也
と云ふは あり衆と交り上はくも ありは ありいふことあり ありは あり 定本の情欲
と戒めんとあるの法則ありと云はれて程よく有用あり
付は あり 定本ありと儒者ありと道の全辭あり

としりて云と云く夫小迫りあむむるは直毫厘の
多かりし天地懸隔するも乃ひ堯舜の存授湯武の
教行を以て公道天道と行りし人を以て教論するも
迷ひの甚しきものありてあはれく天照大神乃
御授に背きまかりかつ天下の人を以て君臣の大義を
失くしめ天倫をそとかりしめむと云くはあはれく
忘る者まことのまかりあはれ明を以て誤りしを以て和原
の道を論するも全くあはれ臆見しはあはれまかりしは
菅家送誠にも凡治世之道以神國之云妙欲治
之まかり本朝之綱教者以敬神明為最上神徳

微妙。豈有他哉。ふとあはれにてもむと云く皇國の道は
あはれにいと神とあはれあはれ皇國の道も
義理現知よまかりあはれ皇國の中にかのほく義
理備りて中正とほくは始りて理をまかりするやの
あはれあはれとゆめまかりし

○道徳を以て國教を以て其の著しく入學新論と云
書云。天下之教二。曰正。曰權。吾之所以為教
者二。曰儒。曰佛。正教順天命以立教。奉天道
以行之。是因人性固有之理。文之而已。故道
或名曰文。云々其始興在堯舜。而大成于孔

子。故又名為孔子之教也。古の說例の非也。さうハ
 儒見りて正也。とさうとものと常理一筋也。さうして姑
 正也。とらんゆ。うきうきつてそれ真實正なる事と事
 實に徴して云ふにわづらひきく順天命以て教は
 れといふも又よ實なきことといふよとあれど道ハ彝倫乃
 道なり。論外ふとこの正教の祖とさう堯舜のめき
 ころめて奉業代與一終よ天命と一も禱り君長父
 子の大倫を乱したるをいふゆそや丹朱商均不肖に
 一々王の器量あるは舜禹それ々攝政たらんこと
 真の道は協ひぬるを二がき天命と一もふゆ

修へさうハ畢竟目あれ理石よ迫れとものなりはさ
 例の朋辨也。上堯之讓也。雖出於愛民
 而大地大倫矣。國君死於社稷。況主於天下
 乎。雖非受於祖宗之天下。然天下重器。以天
 下比之。敝蹤其本既輕。且乎後世生企望焉
 惠民不如常之大惠者小也。有常則民自
 安。而惠在其中矣。以惠民却詒孽于千歲大
 矣。堯之過。去々といふ實にけり。之學のゆた
 古の大義を辨しつと專要とてそのゆた
 しくとちゆ。宋乃蔡沈の堯舜ハ父子乃衰也

湯武を君臣の缺也といふことより、
は日月とす。仰き父母よりよほふ事ありき。の
ありて天下の便利とて、
をくも、
まをく、
をく、
の掟と、
千歳の家系と乱まらんや。
その皇國人の真情なり。り、
このありて、
は、
は、
は、

説み吾國々人の種世代當ふ國々は、
を神代より定りて、
ふおがり、
よ扱ひて、
りとも、
かれハ國々、
き道中、
は、
述治國之術、
畝畝之中、

心より道のおとらしくゆく徳なり仲尼の世は天下の道衰
微の時ありきれど其教法のゆるかりしも厚く去れ
母は実功とては又よあるまなくまよりのちくもよく
世は初れらるるより史に明らざるを其始興在堯舜
而大成孔子をこしひく其教のなれどもとめてとれるも
おとらしくも愚昧のゆりともなる

○又新論云。彼邦先王有郊天祀上帝之禮。福
善禍淫之論。如書盤庚所言。茲予大亨于先
王。爾祖其從與享之作福作災之類。此因祭
祀之禮。人情所同然。明禍福原天。以喻庶民

也。然無因果報應之論。不敢言其所不知。亦
唯正教之故也。さるるも天命と因果とハるの
説異ならんとも善悪禍福の報いをもいふを變そ一なりはて
天命は説く天のゆるかり然るもゆるかりとて
それゆへにゆるかりをいふも人衆能勝天ま
天定勝人といふゆるかりに思ふも其時^{トホ}はゆるかり
ありて天姑く人は得勝と其本意徹らぬ間也^{トホ}と云
つる説亦其時とゆるかりハ先祖の積善の余慶也
よるにそれと其積善小報中の天意違ひたるも云
ゆるり又顔回、不幸をうけて天未定其本意姑く徹ら

ぬ間なまなりやと云ふを又其不幸あり先祖の積不
善の余殃かるといふ可れとて其積悪は報中の天意
達したる也と云ふは其義兩端より其甚大言
のゆゑまゝとははれぬ又右の論者の説く苟内顧之不
疾我心之常恭則雖有厄亦窮死
喪人之所無奈何亦天命之耳又其天命と云ふは
あやまらざるべしされど罪なき人は災禍ハ下まらば
儒者の説く天の所常はいと度なれど善悪福福の勘定
急速は行届くも一なる算利宛とて善悪の報い聊
も同遠なきもの也と云ふも是れ天徳代神
がやうといひ大徳ありとのハ必有命をこころに
賢者と云ふといふ萬民のみ天より公に治るべきと云

ゆゑに孔孟といふ時を好む顔回らめきと短命といふ
ありては心多かれといふれは先祖の積悪は報中乃
ちまやがらぬ又と天乃勘定宛ぬありと天姑く
人よは務ぬ間ありと先祖の積悪は報中といふ人
中を天の中意なれど不幸ありとも云ふぬをば人
よは心くかれは聖徳とはあるらんたまへ聖賢を
しもけし盡てまはれ祖の積悪を罵責するありと云
やふれは志なきをまさく勘定の宛ぬやとて
天の人ふえぬありといふも事なれど聖賢といふは
おぼろしき生涯ふ幸にしてあるらん天の神助あり

あしんも甚いしく元來天乃心聖人の説れめくかんにハ
母よ悪人と心とと禍ふあきと及万歳固家安松なり
しめりて聖人も賢人も中絶つる乃とと名のみく亂
の毒れりるもあきまじく世をやかく天下の事実に徴し
心と符合せぬりとのおちを以てて聖人の説れ信の
もあきまじくおのりしとあきまじくとのこ
聖人の固にして却よ所る
るれはハいふまそやのつきの何より天定り候
吉の初とんもあしんといおほつるあきまじく
あきまじく聖人姑く頑民を執彼せしめんとの權教よ
りてそのれと心教ありぬるゆりるもあきまじく
も我神典の言旨今々のる實によくあがりてゆとあきまじく

聖人思ひあきまじくとのこ

聖人の道れ虚文れりるもあきまじく
てはく後神典をよまきこりてあきまじく

との實聖れりて
あきまじくきさき

○同書云。本邦神道。富霏爾墨尊時。己有織祭
服之事。其興尤久。神武帝以來益有崇飾。至
今三千余年。列聖相承。四海之民仰之。如日
月。尊之如神明。與異邦屢易姓者不同。云々
こはとくよりはるもあきまじくそのおれ海さしとれと信
あきまじくあきまじく神乃御來れあきまじく萬古
一日乃めくあきまじくは日月の天れいれふりあき
おのりしとあきまじくあきまじくあきまじく

中もあらぬと姑く述ぶるものありおとらうかえんはは
るなり物もみちる古学をきくより儒の流も
けし其言をゆき吾天子の貴きと知るものありと
そはあふに對へく姑くおとらうとするもの元來日
月也天子とハ易かきその文を以て理を辨へたを
らぬし真の天子を吾天子に比せりとすてハその作
者もさうかおはくも天子ハ日月の如し民の父母と
あつむるものとされ取易くするれ志をくするは
や戎夷乃おとはいひあうあわりにあさるべきこと
はや仲尼云。天無二日。土無二王。家無二主。尊無二上。示
民有君臣之別也。と云入るものわたりハ全虚文なり

其實ハ皇國よのこあつ
しむおとらう

○同書云。神道以忠信為宗云々與孔子之道無
異。云々皇國イハ元來道と云言奉りしと云たあの
うう忠信の道行ふれし論かきと儒者中もそれハ
外國代もやとて我國にも教道ありといふも
あうかき道の言奉りきハ道にえしはる故こはたて白昼
に燈ととも晴天に葉と着けり但ちひく皇國に
も教ありといふんハうれ天壤又皇國に孔子之道と
も其名正しうも論語の教をてききもの也は其
教も堯舜湯武と祖述せしものかれはしう君臣の
大義にわたるるにきくはるもの也例乃明辨れ附録

信まはる忠信
こいふのま
忠信とハハ
仍のりあう
あんたかこの
事實によて
つる付ハ忠信
といふハた
口實とするの
よて實ハ不忠
信におつ
ちりしう

云。論語者寔彼邦之善教也。然仲尼之言。有大不經者二。疑者二。不經之一者。以湯武厠堯舜是也。其一者三分天下有其二猶服事於殷。周之德可謂至德而已。天下者殷之天下也。西伯者臣也。雖尺土莫非殷之地。雖一民莫非殷之人。周之初者。岐之下而已。而至有其二者。蠶食而有之與。儻諸侯臣從而有一之與。不出此二之者也。紂豈妄與地哉。蠶食有二也。其貪暴過於秦政。秦與六國敵國。然猶惡其貪暴。有虎狼之號。况蠶食君之地乎。

雖諸侯之地。天子在上則天子之地也。蠶食天子之地。非叛而何。諸侯臣從而有一也。是亦叛也。齊桓晉文盟主敬天子猶罪之。况臣諸侯乎。非三晉列諸侯之類也。凡三分一。四分之三。或五分之二者。分斷於物之盛數也。非大半過半之謂也。有天下之二。有何所疑焉。史記有西伯與呂尚圖而傾諸侯之趣。以是觀之。以竒謀臣於諸侯明矣。何以聽其不臣。至德稱之乎。以語聲不免不經也。既有其二則不可服事於殷。然猶服事之謂也。假令

備れん缺々の百姓日用而不知。おととい。全く吾上古の徳らに

大規格の上よ出る。こゝにあはははらるゝものなり。應神天皇乃御代。百詠王なるを阿直岐と云ふものぞ

法よよくて細く良馬奴奉り。其阿直岐經典をよみ讀むれば即

節備り。可なり。菟道稚郎子それを所として經典をよみ讀むれば

心とじてやがて。のの五仁をも徴し。終ふを乃ひしかり。あやまらざるを

安民乃道にそりて。不^{アカヌ}足る。於て。いとも天正代經

文。終ふ。身て。ハよ。地う。こは。も。よ。き。る。故。と。お。り。徳。ひ。ん

ハは。る。る。は。く。角。字。の。便。利。を。と。ら。あ。よ。た。ら。う。き。り。の。に

思。百。も。ん。る。は。ち。う。く。か。を。う。り。外。國。と。通。融。あ。ら。う。ハ。か

し。こ。つ。ふ。や。も。あ。り。は。ら。を。て。ハ。え。あ。ら。ぬ。も。と。な。れ。ハ。や。て。文

字の道とはもの。はひ。か。く。し。ゆ。ん。仁徳天皇御

兄弟御讓位の事ありて。菟道稚郎子自殺し。終へ

乃を。思。ら。く。ハ。古。の。御。讓。位。の。御。事。よ。り。け。り。て。よ。れ

事。と。あ。ら。ま。ま。も。い。と。甚。し。く。な。り。て。は。比。の。朝。う。り。勿。世。中

乃。さ。ぬ。一。妻。し。ら。う。ハ。ら。の。理。を。小。迫。れ。る。儒。道。の。弊。な。る

る。ゆ。ち。し。ら。う。か。つ。て。は。や。ま。も。く。れ。漢。意。と。甘。く。は。ひ

終。く。は。律。令。格。式。を。も。制。作。し。終。ひ。し。と。こ。の。あ。ら。は。く

繁。密。な。る。も。つ。り。と。もの。お。の。り。神。國。の。風。土。よ。る。を

も。も。か。つ。文。學。の。道。ハ。勅。て。事。々。用。意。と。か。さ。り。し。ゆ。の

教。が。れ。く。人。心。さ。う。く。あり。淳。朴。の。風。と。あ。ひ。く。世。の。害

万。事。上。に。用。意

ふ。け。の。さ。か。て。て

そ。ハ。事。に。あ。ら。は。す

度禁令為之規矩。使知政之所由也。云々古の
務究めてよる。云々。物と聖人乃教法。云々。も
はいはまても畜生嶋か。云々。おの。愚昧の。云々。
い。云々。は。も。あれ。時。所。位。よ。ほ。ひ。て。法。方。制。令。の。お。の。い。
云々。心。事。ゆ。め。の。な。り。

○同書云。本邦無文字。上古之事皆出傳説。見
齋部廣成古語拾遺序。書史之作。古事記。日
本書紀。尤古。然距神武帝即位。千三百餘年。
書紀記上古事。多采淮南子之言成文。頗為
學者所非。古事記之作先書紀九年耳。本居

宣長以為二家之言。皆記其所聞。不相沿襲
信矣。古事記之文。據安万侶序。其鞮譯。雜用
音義。已非漢文。又殊和言。學者以意屬讀。言
人々異。無可適從。且阿禮所誦事則古。其言
當時之辭耳。云々。予以為本邦上古之言不
傳。且聖德太子以天照皇為婦人。云々。是。一
時。權。宜。之。言。以。濟。其。和。云々。古。の。拾。遺。甚。い。う。が。う。古
語拾遺序に本邦無文字と云ふ。ハ。語。を。云。く
神代小文字あり。云々。と。云。ふ。明。く。之。を。ハ。平。田。篤。胤
大人の著作古史徵闕題記又日文傳と云ふ。云々。は。

あひとれるは意味乃ちなり今服あし和と清と
優劣と福をんよかれよききて優^ニれりともる物小物
末事にあま我よおひてとともるものは大物要事
よありそは先 皇統乃綿々としておとく一備とては
中とる之水土の清きと人の性情の清潔なると米穀
のうぬきとと摘出てもあひとるき也はて清土に忠
性義士等の名答多きハ早竟國疥弱さるるを
一は名多き何よ名醫知るること
老聃の國家昏乱
有忠臣と云ふは
又和國の經典てしものハ藥の功徳書に似たりと或人
のいふハよくあはれりはるはその文面といふこと

実功甚為くしる聖人乃髓腦なる易春秋がといふ
もた文学者乃奥儀をいふそのふかりて國事ふおひ
てハ文益あつるなく春秋おたりて乱臣賊士のれ
それ一例もなく又易学のめきもた其文義と講一或ハ
ト筮とよりて産業とするの外なくきとめく何よこりて
あてりのかたれ奇物とあれともあれとも國事にあつる
ほともの切目ハつていふ易道をたしめ聖人は
未承をいふと服をなうるとみえて堯舜乃めきと
當時乃民とめくせんり為よ始りて奉業とおとく他人に
天位と稱すく一方世乃乱の階とは作りしかりしを

易も春秋も虚文のそれなり其実功あることなきハ
文に信用一かきもとらり弑逆の罪人なき皇國に
ては春秋の如きものよきとん又いふる山然とて逆
賊と逆賊とんあぬりのヤある海去りてハ文字の
名あり若しその義よくらる湯武とて聖人と稱さ
たも春秋なりとみてけりてかれら逆賊がらとて
あつてもあつていとあきつべきとるべきや例の明辨
云^上畧我邦之制者素溥朴。彼邦之制者素虚
文。素溥朴者其標自誠實也。素虚文者其標
自詐偽也。其所隔雖一間治乱之途。基于

斯矣。春秋二百四十二年之間。弑君三十六
滅國五十餘。秦漢而下至元明。弑君殺親害
子者。谷計不可尽也。所謂仁義之邦。曷如此
哉。我邦元弘後乱三十餘年。天正前後五六
十年所。是為最。保平之間。源平相拒。不延歲
月。如前九後三者。以有憤於鎮臺。盤據其封
域。以拒命耳。非天下之乱也。上古雖間有不
逞之徒。拒命不足煩一旅。發即決已。亦以不
延歲月也。故我邦居治十而八九。是我邦非
制治之至善哉。儒云人之為人者。五倫暨仁

義爾。以之教人。人被其澤。是非我道輔治哉。其言似是。然知以五倫仁義為聖人之道。殊不知。我邦素以五倫暨仁義為教矣。夫倫理者。自然之道。有人茲有此道。非若異木異艸之始來而滋蔓者也。不啻我邦漢土。雖夷狄亦有此道。其建制之純粹。與醜之異耳。云々
と云々おや云々云々云々

○外園乃教法は一種の妙薬のやうに思はれ人々を治す
りては其功を知らず。あつといふと云々云々云々
云々云々云々其薬毒にありて却て病を増す

その也。は然く其病症といふんは。我慢派は其の
病ありさう。故に鬼神乃悪むありと云々云々云々
は衆人親まじ。且運命はあつて福分なきものあり
はて又器あり。の僻として博聞強記を好み身持放
蕩がらも有り。あつて文雅風流に倒れ驕慢がらも
あつて。
この病は浮学を、困学をいふ。云々云々云々。又理学を
困学のおこるるも。外園の道の弊を云々云々云々。
ハ一箇の道理を縛うて云々の活法と云々。
全縣文學の
道人の意
一向は物やうかつ固滞偏執の
病多くあつて一己の了得と云々云々云々云々
のちと云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

書とよみかこり事跡其とむぬて我國乃事
よは金とを用ひぬ。あれといふもやそれかの。學と而
れ仲尼の道も情りていとわいぢさうと云ふ。又を此の洋
究理の學行をれて天學醫學炮術等大きにひらき
ふ。そのの便利よりて、いとも知らずのたれも大かと思
ねて、いとも其學ひつゝ、時々の困れを考へ
ほて、いつとなく父母れをこゝろする人も知らぬ。既に
をば、はるる外國より内通せしむるありて、上より罪をひ
ひらるる人もあつとらん。西洋人の權教を用いて、人
を服従せしめ、おの土地と居るは、一地球をも吞んずる本

願あるに、より日教工を究理しては、あく此兵器を製
し、まて用て、流ぬとれ。強賊の利と、或は造化の功と
奪ひ、奇なり。物と製して、人乃目を悦と、め財宝
とほらると、其れと貪欲の心切ら、ふ知れ、彼の家理
の學、平亮鬼神の惡む、あつとみえて、其國人も、其
と保つ、あつと、生涯養生の道に、んと、あま、た、却
て、それ、不究理、よ、お、い、と、あ、つ、ら、もの、又、この、火攻
の凶器、れ、め、き、其、思、つ、ま、あ、つ、一、度、は、ら、め、ま、て、
ま、と、用、ら、何、れ、我、も、又、用、ひ、ら、る、あ、つ、い、も、これ、言、に、や、む
と、代、り、ら、る、もの、に、匹、も、か、れ、ら、の、奸、智、は、支、那、人、か、ら、

西洋の
あるは
あり

乃々そのありしをきき記しりて其術をみるに漸く
にして人と信服せしめんとする其機察をくらあふ
○凡學問の要は君臣の大義を辨ふるありしを君臣を
ふひと人の堅支と第一義と一今日の御制度と守り
家業と勅の御お紀る論ありしを心術をいひて
ふよ立ちたきりしをもうもや申されしをいひてハ
ねむしきるありしは菅家の御言にがごとく國學を
要は和魂漢才ありしをわきまき其蘊奥を究ること
ヤマトタケヒカラ
あはれとあるふ君よ貴き神教也和魂とハ神國の情
き水土によりて生虫たる人の性情をのほく直くは

有れを漢人の質濃くははりきよ對て宣しもの
勿論淳古ふてもよき人として皇國にてもあき人あり
たれし人心の善悪ハ和魂におきて論まきよありし
とよもあきふれと全神とみてみるは人物一切神
木是れをよむりても其要異ありしを明しきこれハ
皇國の学古ハ神國の神國たるをれと知り我和魂
の貴きと明しめはるしとわきあはしきものなり
のれは神典より古書
昔と後とにありし神 是即皇國人の心術をいひて
淳古の禮樂刑政治乱の跡もあきしはあきし
その上古神隨たる道りて治め治りし御代ハ文學

の理をよ通るゝと云ふ事と云ふは是即第一義の上なり教
しと云ふ事と神の信をよめたる道と云ふは中庸公道を
と云ふ事と云ふは道徳ある法と云ふ事と是即第二義
の事と云ふはたゞ毫厘のたふしあるはゆるされずと
云ふ事とするの弊甚き事にありては君位と下民ユウと
もたゞとて云と云ふ事と道徳よおいてたゞゆるすをけき
は天も人命と革むといひて却て其法既経と云ふ事と
ありて是はありては聖人一の時をよ處するの權道と
云ふ理の如くといふ事と其よりして道と云ふ事とする事と
弊をよめたる事と云ふ事と云ふは正直の言ハ和尙にあり

天地懸隔一且國家の存亡と云ふ事と云ふは

○皇國上古の列聖皆武と云ふ事と云ふは治め多し
禘祫一はてその中におのほけし文道も備りし
そは 天照太神の御心を君君上下の等と認め治
ひハ更なり代るの帝 應神天皇よりあるの
帝代はしとある 強よ時代お
愈の法別とまをて治ひ天下と評定し治ひハ即文
道とて文といひ武やといふ事と云ふ事同一仰なり
御とて外國の法よりして始て文武の道備るなり
と云ふ事ハ文飾の上りして論と云ふに云ふは又この
文質彬々なりといふ二人の法をよめると云ふは全よ

神にかけられ、論をわあつらへて文をいもいも
 のあつたきつうハ技を末事おとりにてきは却て困窮
 としつらひの弊あること既中もいふこと一武も又藝
 道よおちてをわいをけとと武術ハ義氣と助け
 義と善いものかれと困窮と強ひつるは案がふ
 と論をいふに蘭人ケシナル檢夫ふといふ者の言と譯
 一とて鎖國論と云およ上日本畧の比自然堅固一
 て外寇の思ふきめの究てなり畧中ふれ勇猛無敵
 の民俗もその固者の志よほつるの印あるて他の
 命令代つるなり又云日本人一箇の氣を家の事代

られと名けて膽氣とやいふ人英氣とやいふ人雙言
 乃ありし折負つたれの時又ハ怒と成てむゆつたあはさる
 の何よなきを精神審察としてみゆ強ひて強半ハ
 加つると誰とせとその性命と性徳をさうかこれ
 一中畧畧も此も日本人とは怯懦なる支那人の志
 とおとらんハ志は強ふゆつらつとわ中日本人の
 其方概とつて戦場よりつて次第みくつて正しく將
 帥の命とききてハ收ひすくみ其宣きと出へるなり
 中日本人の恐れおとんを論するなり中畧其つらと
 育すつても劉と勇とをいふ第一なる事をも教諭す

て力と爲して幼心よ治到するを以て心とせり
あつてははるるも皇國乃武威並邦に明や
正しく武乃不神よ形してを記法ともいふ
はきは困神と堅く是れよ武と基本と一治せよ
威嚴と亦一のよ志くるが一はるるよ上つ代や
政と輔に官人連もみま鞠と負ひ太刀と事治ひ
ハはるるよはくこの世にも人々帯れ刀劍とけくハ事
くくともく一は武威あつてけとぬる小事の上
してよいふ志く一何そのるにつまむるを以て侮
の人丈は百はくハ付賞罰とつく中にも先威嚴と

宗とせされく号令行をねも又彈治あると
すして威嚴を用ひされハ事とくそのぬりのこ
のるれく実よよんて考ふつきのめ
俗の帆足某海令称
して見其立暴君之
朝祀顔諫視死如歸我邦人不能及也
のこはてての士人は蘭人の後れく怯懦
○凡て天地乃道は神の所靈
中に第一義とよきものあり第二義とよきものあり
はるは上古や自然の道とよきものありはるは
も思ふよ自然の道とよきものありはるは
義の道とよきものありはるは
息乃のぬるよおほく又大やはるはる義とよき

ふれいと感うく味ひあはるるもあつて何となく行つて
正れらるるもみる言妙乃道程として是又第一義
よつて居る道のりきとけは詩歌書画あつてよ風致
と氣韻がとつたものあつてよくして何ものよにも其れ
何とてとあれてあつたもの六皆第一義の道也 この道と
えあつた
らうらハあつたよとまする
しあつたハあつたものぢやう して勸善懲惡の道とけ第一義
とましてその利害はあつたもの別よりあつて何れもまはれて
この道がれどかくてこの場をとかく理をと放つて
あつたを穿鑿よあつたもの多き中にも儒道は正
まはつたものよ迫れらるるの如く始に善惡の見ととまら

と常理のゆゑあつてよくあつたものと老莊佛の如く其
説第一義のよに付けては然とちあつたものとひひと
それとも倫理と宗とをも早急空理と觀する心術
のゆゑあつたものよひひと神道にも第一義の道は空
事にしてゆゑあつたものよひひと道にもあつた後教法もよく
自修するの道にもあつた後 皇神の定めを法ひて道も
よくと論が

○困學といふものよ来て和洋の論とあつても早急ゆゑ
の道は敬サがると論が 上古神隨たる道のりきと
ははつた道とよくあつたものよひひと病を

法方あるところを言れやびと欲はるるの道に依るを儒
 者の意よハ國學志みうに聖人の道と非儀す也
 公ひりて幸免於天誅かとも及つハ甚ん好ま
 しくもやハ腐儒の流俗と申ふと宗々皇國と
 東夷とおとめ草きには如くハ
 君とて山城天皇たといひもあつハ言強道斷
 たりとしははる僻儒もすくなくおほハ神國の書き
 と知るに及くといひもくつてたさるるはくこは全く玉
 子先哲の大功にして神木の表きと知る若日々に公
 事ハやくて國神と強むるは基ねるる論をくれハ
 かつても先哲の誠忠作くハかゝるべきものハ

八田知紀著

以てしき記りとを辨しむるなり

○右の辨書は自注より神真乃道とありその実事れよる偽
らうありしものにていせ乃字者如とせかく教訓乃書
然して道は知れざるにん好む其の謬ふいふれ
れく実事れよるを教訓といふと道乃実なりとあり教
とありしこれハ教訓とありしものなりとあり卑きもの
よるは老子の書より大道廢れて仁義ありとありそ
いとん授けしは但老子乃この道と徳と徳者左道乃
に中ありしとも孔子の徳もいふや曰始乃徳とあり是は
禮記小大道之行也。謀閉而不興。盜竊亂賊

而不作。今大道既隱。禮義以為紀。以正君臣。
以篤父子。以睦兄弟。以和夫婦。以設制度。以
みえいめて由合あるはこれハ徳ハ教訓也とあり
やと人の心は深き深ぬものなり其は近くありは
士乃んと勇免い軍は先驅せよ人より後れを
く軍は先よかきを教れて引しと記し教訓の書と
漢といふは古乃勇士たちの高名の実事れ軍書とよ
ませい方ゆくは感入いて我も其れ許らぬか
むと猛ん起らんとも教訓の書ははたして慷慨の志
は真なりとあり是は當りて教訓とありしものは

其人とありれ善くぬ者れ、[○]其の訓言、いふも書ふに
あつたや宣^つくく、[○]又いふのよき、[○]漢書に、[○]其の書と
もに、[○]それら多し、[○]或は君と教して、[○]困と奪ひ、[○]若くも、[○]此
に、[○]其の教訓、[○]まゝ、[○]減小、[○]金科玉條、[○]と、[○]いふ、[○]其の、[○]まゝ、[○]
之い、[○]とも、[○]其の行の、[○]実と、[○]いふ、[○]て、[○]主の教の、[○]困賊、[○]を、[○]其の、[○]く、[○]
しき、[○]教訓、[○]とも、[○]善口先の、[○]空言に、[○]は、[○]此の、[○]其の、[○]學者、[○]古の
簡牘の、[○]意味、[○]は、[○]辨へ、[○]と、[○]教訓と、[○]おた、[○]漢籍、[○]ふ、[○]て、[○]
道、[○]は、[○]知、[○]わ、[○]ら、[○]れ、[○]る、[○]と、[○]い、[○]ひ、[○]あ、[○]ら、[○]う、[○]か、[○]ら、[○]う、[○]と、[○]い、[○]ふ、[○]も、[○]な、[○]ら、[○]ず、[○]
漢、[○]土、[○]よ、[○]て、[○]も、[○]い、[○]ふ、[○]れ、[○]起、[○]と、[○]よ、[○]く、[○]な、[○]り、[○]は、[○]先、[○]孔子、[○]一人の、[○]や、[○]れ、[○]お、[○]え、[○]
は、[○]い、[○]れ、[○]も、[○]其、[○]の、[○]言、[○]も、[○]我、[○]欲、[○]載、[○]之、[○]空、[○]言、[○]不、[○]如、[○]見、[○]之、[○]

行事之深切著明也と、[○]い、[○]ひ、[○]き、[○]孔子、[○]て、[○]い、[○]志、[○]を、[○]教、[○]
訓の、[○]書、[○]と、[○]と、[○]一、[○]部、[○]一、[○]冊、[○]も、[○]作、[○]ら、[○]せ、[○]た、[○]春、[○]秋、[○]と、[○]い、[○]ふ、[○]史、[○]と、[○]の、[○]
正、[○]して、[○]此、[○]記、[○]録、[○]と、[○]漢、[○]は、[○]自、[○]ふ、[○]悪、[○]と、[○]懲、[○]り、[○]善、[○]を、[○]勸、[○]め、[○]い、[○]や、[○]
れ、[○]お、[○]取、[○]ら、[○]る、[○]ふ、[○]て、[○]孔子、[○]生、[○]涯、[○]の、[○]骨、[○]折、[○]と、[○]い、[○]ふ、[○]此、[○]春、[○]秋、[○]め、[○]い、[○]ひ、[○]き、[○]
其、[○]を、[○]秋、[○]志、[○]春、[○]秋、[○]に、[○]あ、[○]り、[○]も、[○]又、[○]秋、[○]と、[○]知、[○]ら、[○]る、[○]も、[○]それ、[○]唯、[○]春、[○]秋、[○]
を、[○]秋、[○]と、[○]罪、[○]す、[○]ら、[○]る、[○]も、[○]それ、[○]唯、[○]春、[○]秋、[○]と、[○]い、[○]ふ、[○]也、[○]と、[○]い、[○]ふ、[○]に、[○]志、[○]
を、[○]免、[○]れ、[○]て、[○]撰、[○]ひ、[○]い、[○]書、[○]を、[○]漢、[○]籍、[○]め、[○]て、[○]春、[○]秋、[○]と、[○]義、[○]理、[○]の、[○]正、[○]し、[○]
書、[○]は、[○]た、[○]く、[○]孔子、[○]の、[○]意、[○]を、[○]い、[○]ふ、[○]は、[○]い、[○]ふ、[○]書、[○]は、[○]誠、[○]と、[○]い、[○]ふ、[○]の、[○]ま、[○]は、[○]た、[○]
然、[○]と、[○]信、[○]の、[○]漢、[○]籍、[○]者、[○]如、[○]く、[○]儒、[○]書、[○]に、[○]よ、[○]る、[○]も、[○]初、[○]の、[○]と、[○]著、[○]明、[○]
か、[○]ら、[○]と、[○]保、[○]れ、[○]あ、[○]ら、[○]と、[○]辨、[○]へ、[○]も、[○]只、[○]々、[○]教、[○]訓、[○]と、[○]記、[○]し、[○]い、[○]漢、[○]籍、[○]よ、[○]

うてい道は初れぬるく狭く心はいては方れ実事に據り
て道と辨い學問と疑ひりら己う本意と辨い孔子の
中とことん好せぬ春秋と熟讀をきん張りにてら春
秋と熟讀しし孔子の西とことよく好いははれ學問
ふ書と記ししとと事あることと好いしとくすひや

神園藏板

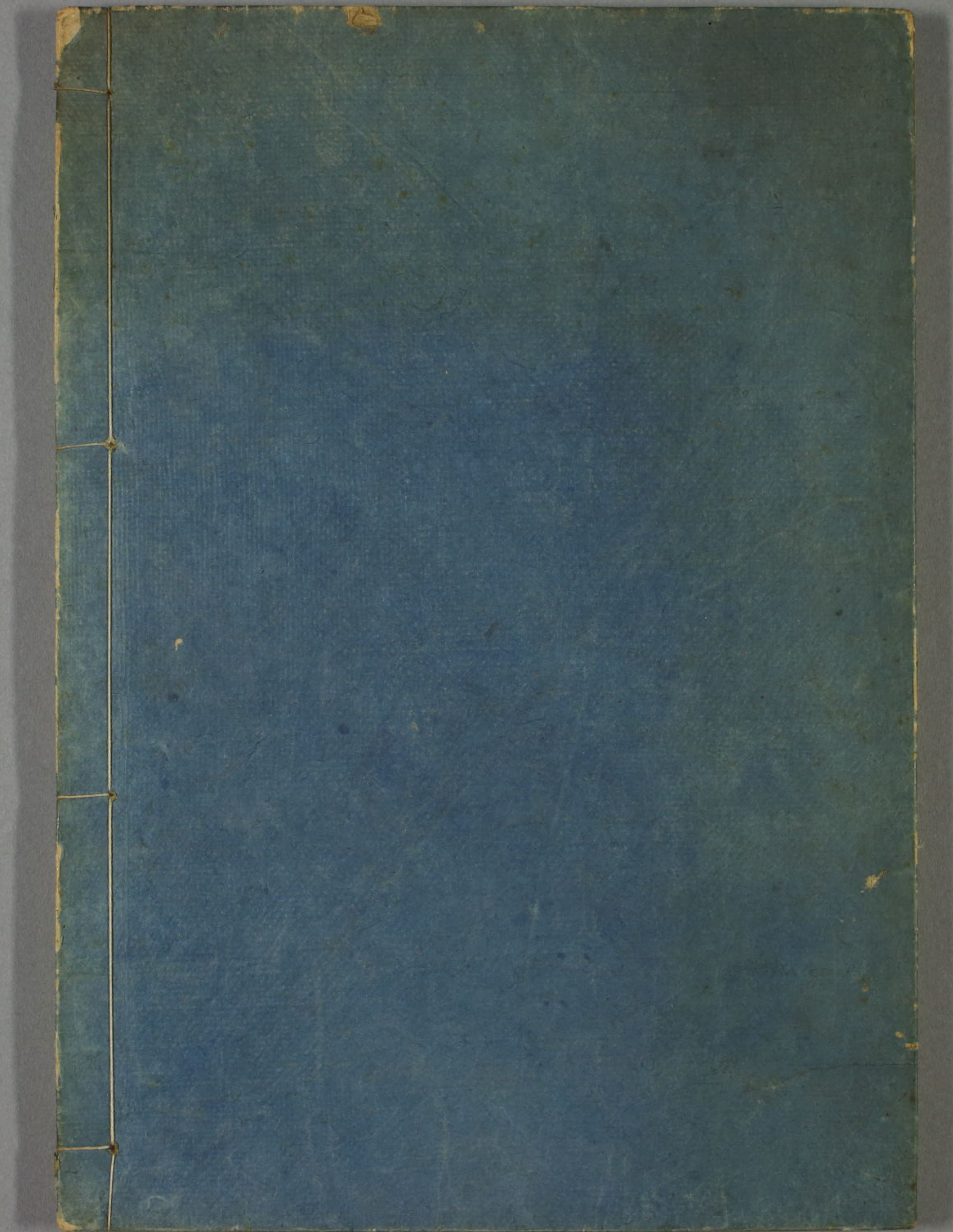
(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

明治三午年九月

官許

尾張名古屋	永樂屋東四郎
同	萬屋東平
伊勢津	篠田伊十郎
信州飯田	
肥前長崎	小埜左右助
薩摩鹿兒嶋	青木泰輔
東京	須原屋茂兵衛
西京	池村久兵衛
同	北村四郎兵衛
大坂	中井源兵衛
同	秋田屋太右衛門

製本發行所



八田大人著

桃園雜記
初編

發行書肆

皇都

麗水樓

秋屋杏衛門
藏版製本之記